

自然素材にこだわり 地元で愛される家づくり



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー②⑤

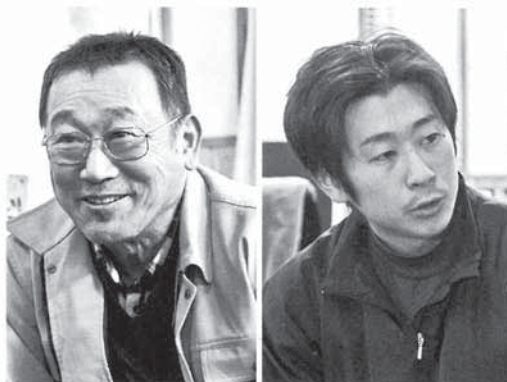
こやま はる ぞう 小山 治三さん 小山 貴司さん

小山建築

坂城町大字南条4546

創業までの経過は？
中学を出て上田職業訓練所で1年間木工を学びました。木が好きで家具を作りたいのでした。その後東京の家具製造所に勤め始めました。その頃からオートメーション化

創業者の治三さんは25歳の時、大工として独立した。手問掛けから始まり、30歳を過ぎた頃、初めて元請けとしてお客様から仕事を依頼され、新築住宅を手がけた。手問掛け時代に培った職方の仲間と一緒に造り上げた家は今でも強く印象に残っているという。昨今の住宅は高性能化が進んでいるが、あくまで「木」にこだわり、手問と素材を惜しまない家造り、それが父子のモットーだ。



昭和54年頃、訓練所の同級生の家でした。はじめて元請けとして建てさせていただったので今も強く印象に残っています。家造りは大工一人ではできません。そこで、左官や建具、屋根、基礎などそれぞれの職方の方々と仲間に、現在は「小山会」という協力を組織しています。信頼できる仲間と一体となった家造

が進み、手作業で木を加工することがあまりできませんでした。大工ならもっと直接木に関われるだろうと思い、足立区の大長工務店で約9年間大工修業して、坂城に戻り大工を始めました。最初は手問掛けで、増改築などに携わりました

父・治三さんは中学校卒業後、上田職業訓練所で木工を学び、東京の家具製作所を経て都内の地場工務店で大工修業。25歳で坂城に戻り、独立。以来、42年にわたり地元で愛されてきた工務店。木を大切に扱う仕事ぶりには定評がある。

父の背中を見て育った貴司さんは千曲高校建築科から北海道の建築専門学校に進学。卒業後は他社での大工修業を経て、5年前、小山建築に入社。父の片腕として家業にいそしんでいる。

りに取り組んでいます
家造りに対するこだわりは？

やはり木ですね。もともと木に関わる仕事でしたから。良質の無垢の木を使い、自然のぬくもりを感じさせるような家造りを目指しています。今の住宅は高気密・高断熱で、丈夫で住みやすい家が当たり前です。そのため断熱性や換気、耐震など技術向上の勉強や研鑽は欠かせませんが、家の基本はやはり木だと思っています。長く住む家ですから住む人のことを考えれば木や自然素材を使った家のほうがいいんです。手触り、温かみ、それに、健康にいいんですよ

年間1棟に手がけられる棟数は？

おおよそ2棟です。社員3人です。ので数はこなせません。1棟完成するまで大体半年です。から、2棟がちょうどいいペースです。合間に増改築なども手がけています

手問をかけた丁寧な仕事ですね。

そうでないと、満足していただける家は出来なと思います。私も小規模です。ので広告や宣伝にお金をかけることは難しく、仕事ぶりで評価してもらえないんです。その仕事を見て口コミでお客様が声をかけてくれる、そんなうれしい流れが自然と出てきました

これからの抱負をお聞かせください。

昨年「小山会」の方たちにも協力していただき子供向けの木工教室を開きました。幼い頃から木や土に親しんでもらいたいと始めたのですが、とても好評で、今後も定期的に開いていこうと考えています。子どもたちの親御さんは住宅取得世代の中心でもあり、こうしたイベントを通じて私たちの家造りを知ってもらえれば。親御さんは息子と同世代です。その意味でも、家造りの現場もそろそろパトントンタッチする時期かなあ、なんて考えています

父のこだわりでもある、木にデザイン性を加味した小山建築独自の家造り、それをこれからも目指していきたいですね(貴司さん)

